

ちのみがわ  
乳呑川水系河川整備基本方針

平成 13 年 5 月

北 海 道

# 乳呑川水系河川整備基本方針

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	-----	1
(1)流域の概要	-----	1
(2)治水の現況	-----	1
(3)河川の利用の現況	-----	1
(4)流域の自然環境	-----	1
(5)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	-----	2
2. 河川の整備の基本となるべき事項	-----	3
(1)基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	--	3
(2)主要な地点における計画高水流量に関する事項	-----	3
(3)主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	-----	4
(4)主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	-----	4
(参考図)		
乳呑川水系流域概要図	-----	5

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域の概要

乳呑川水系は、その源を北海道浦河町市街の北東約5kmに位置する山地（標高242m）に発し、乳呑三号川、乳呑二号川、乳呑一号川、東川の支川を合わせ、浦河町東町市街地を貫流し太平洋に注ぐ、流域面積7.0km<sup>2</sup>、幹川流路延長5.5kmの二級河川である。

河川の名は、一説によると、アイヌ語のチノミ・シリに由来し、「吾々の礼拝する山」の意と言われている。

流域内の土地利用状況は約90%が山林であるが、河口から1.5kmまでのわずかな平野部に市街地が形成されており、浦河町における社会、経済の基盤をなしている。

### (2) 治水の現況

本水系の治水事業としては、昭和37年、39年の豪雨による災害を契機に、昭和41年より国道橋から上流1km区間の掘削、護岸による河川改修が実施されていたが、昭和56年7月の集中豪雨により家屋浸水19戸、昭和56年8月の台風では家屋浸水22戸の浸水被害が発生したことから、計画規模を見直し、平成3年より河口からの河川改修に着手している。

### (3) 河川の利用の現況

乳呑川では、農業用水として約1haの耕地のかんがい利用されているほか、地域の住民が下流部の市街地における水と緑の空間として、乳呑川の川沿いを散策等に利用している。

### (4) 流域の自然環境

乳呑川流域の気候は、海洋性気候の影響で夏は涼しく、冬は温暖で、流域が位置する浦河町の年平均降水量は約1,200mm、年平均気温は約8℃である。

流域の地質は、三角介砂岩層、下部菊石層群が露出している。

流域の上中流部ではエゾマツーダケカンバ群落、エゾイタヤーシナノキ群落が広がり、河道内では主にクサヨシ、オオイタドリなどで、背後地はミズナラ、エゾイタヤなどの広葉樹を主体とした河畔林が形成され、冬場にはオオワシなどが確認されている。

市街地を有する乳呑川の下流部は、過去の河川改修により直線化され、河岸はコンクリート護岸で覆われているが、河床部は経年変化により州が形成され流れに変化が生じ、水際にはクサヨシなどが繁茂し、水辺にはアオサギなどの鳥類やエゾハナカジカ、アメマスなどの魚類の生息も確認されている。

また、乳呑川流域の下水道は整備途上であるため、市街地を有する下流部の水質は、あまり良好とはいえない状況である。

(5)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、乳呑川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川との計画規模の整合を図りつつ、概ね30年に1回の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させることとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、農業用水としての河川の利用状況を踏まえ、利水者や関係機関と連携し、適正な水利用が図られるよう努めるものとする。また、浦河町市街地を流れる良好な水辺空間であることを踏まえ、水量・水質など流況の把握を継続するとともに、下流部における水質の向上を図るため、地域住民や関係機関と連携しながら、流域における取り組みの推進に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、市街地を流れる河川であることから、地域住民と河川との豊かなふれ合いの場を形成するため、動植物の生息・生育環境や景観等に配慮し、地域の自然と調和したゆとりとうるおいのある水辺環境の創出など、良好な河川環境の保全と整備に努めるものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、概ね30年に1回の確率で発生する規模の洪水を考慮して、乳呑橋基準地点において $55\text{m}^3/\text{s}$ とする。

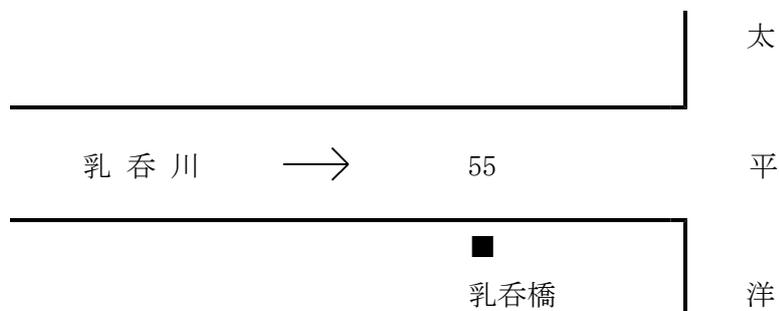
基本高水のピーク流量一覧表

(単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
乳呑川	乳呑橋	55	—	55

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

乳呑川における計画高水流量は、乳呑橋地点において $55\text{m}^3/\text{s}$ とする。



凡例：■基準地点

計画高水流量配分図 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
乳呑川	乳呑橋	0.15	+3.42	12

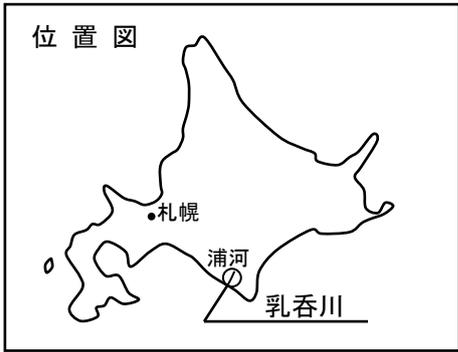
(注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

乳呑川では農業用水として約 $0.002\text{m}^3/\text{s}$ の水利用がある。また、過去に渇水被害が生じた事例はなく、浦河町市街地における良好な水辺空間として地域住民に親しまれている。

乳呑川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等河川状況の把握を行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して定めるものとする。

# 乳呑川水系 流域概要図



凡 例	
■	基準地点
—	流域界

